

北欧のうつろい

シベリウス Jean Sibelius : Symphony No.2 in D Major op.43

交響曲第2番 ニ長調 作品43

グリーグ Edvard Hagerup Grieg : Piano Concerto in A Minor op.16

ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

シベリウス Jean Sibelius : 「Karelia」 Suite op.11

「カレリア」組曲 作品11

森口真司：指揮 Shinji Moriguchi

高橋多佳子：ピアノ Takako Takahashi

2009年

5月17日(日)

13:30開場 14:00開演

府中の森芸術劇場どりーむホール

全席自由 前売1,000円／当日1,200円

*小学校入学前のお子様のご入場はご遠慮下さい



府中市民交響楽団第59回定期演奏会

シベリウス： 交響曲第2番 ニ長調 作品43

Jean Sibelius :
Symphony No.2 in D Major op.43

フィンランドの代表的作曲家であるシベリウスは、1901年のイタリア旅行中に、この第2交響曲に着手し、帰国後の翌年、これを完成させた。この作品は、彼の交響曲の中でも、最も親しみやすく世界中で演奏される作品で、クラシック愛好家でなくとも一度は耳にしたことがあるだろう。第1楽章の冒頭から、「森と湖の国」フィンランドの澄みきった自然の情景を思い起こさせ、第2楽章では、北欧の憂鬱と情熱が錯綜する。荒々しい第3楽章の高潮は、長い冬の後の春を思わせるように、そのまま終楽章へとなだれ込み、雄大で堂々たるフィナーレをむかえる。そして聴衆は、北欧の大地に育まれた魂と希望の光を感じ取ることになるのである。

(Va：下川 雅弘)

グリーグ： ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

Edvard Hagerup Grieg :
Piano Concerto in A Minor op.16

高橋多佳子さんとの4度目の共演となる今回はグリーグ作曲のピアノ協奏曲を取り上げる。この曲は1868年、グリーグが25歳の時に作曲した初期の傑作にして唯一の協奏曲である。当時、超絶技巧のピアニストとしても知られていた作曲家リストは、第3楽章の壮大なフィナーレを「これが本当の北欧の音だ！」と絶賛したといわれる。グリーグはその後出版社からの依頼を受け、2番目のピアノ協奏曲の作曲を試みたが、書き上げることができず、代わりにこの曲の改訂を行った。この改訂版は、初期版とは楽器編成などが異なるが、曲想に大きな違いはない。グリーグは自身も優れたピアニストであり、ピアノの独奏部分が非常に印象的に描かれている。

(Vc：吉野 絵里加)

森口真司 Shinji Moriguchi / 指揮

大阪府出身。京都大学文学部を経て1995年東京藝術大学指揮科大学院修了。指揮法を田中良和、遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、若杉弘の各氏に師事する。大学院修了後すぐプラハの春国際音楽コンクール指揮部門に於いて第3位受賞（1位なし）、同時にプラハの春国際音楽祭に出演しプラハ放送交響楽団を指揮、その模様は東京FMで放送された。以降、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団など全国各地のオーケストラに客演。2002年より東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスを務める。また岩城宏之氏に認められ、2003年から2年間オーケストラ・アンサンブル金沢の専属指揮者を務めた。在任中は定期公演、オーストリア・ベルギー公演、七尾市定期公演、邦楽とのジョイントコンサート（石川県立音楽堂委嘱作品、多田栄一作曲「時の果てまで」初演）、テレビ金沢開局15周年記念演奏会等、数多くの重要な演奏会で成功を収め、堀米ゆず子、リディア・バイチュ（ヴァイオリン）、ルドヴィート・カンタ（チェロ）、崔岩光（ソプラノ）、森山良子、加藤登紀子、山本邦山（尺八人間国宝）など多彩なソリストと共に演じた。オペラ指揮者としてこれまで30を超す作品を100回近く指揮し、最近では大田区民オペラ・ベッリー「ノルマ」（タイトルロール林康子氏）、モーツアルト劇場・オッフェンバック「りんご娘」（日本初演）「シュフルーリ氏の音楽会」が各方面から絶賛されるなど充実した活動が続いている。また東京二期会を中心に若杉弘、飯守泰次郎、佐藤功太郎、クラウス・ペーター・フロール、エド・デ・ワールト、ペーター・コンヴィチュニ、宮本亜門ら著名な指揮者・演出家のとも、ヤナーチェク「イエヌーファ」ワーグナー「さまよえるオランダ人」モーツアルト「皇帝ティトゥスの慈悲」「魔笛」リヒャルト・シュトラウス「ダナエの愛」（日本初演）「ダフネ」（日本初演）チャイコフスキイ「エフゲニー・オネーゲン」など数多くの公演に合唱指揮者として参加、その手腕は極めて高く評価されている。

東京藝術大学、二期会オペラ研修所講師等を経て現在大分県立芸術文化短期大学准教授として後進の指導にもあたっている。府中市在住。



高橋多佳子 Takako Takahashi / ピアノ

桐朋学園大学音楽学部卒業後、1991年国立フルシャワ・ショパン音楽院大学院研究科を最優秀で修了。これまでに加藤伸佳、J.エキエル、下田幸二の各氏に師事。またV.メルジャノフ、H.チャルニニ=ステファンスカ等の名ピアニストからも薫陶を受けている。

音楽院在学中の1990年、第12回ショパン国際ピアノコンクール第5位入賞、同年ラジヴィーウ国際ピアノコンクールで日本人初の第1位、1989年ボルト市国際ピアノコンクール第2位及び現代音楽最優秀演奏賞を受賞等、数々の国際コンクールに入賞。本格的なコンサート活動に入る。

日本とポーランドを拠点に、演奏活動はほぼ全ヨーロッパに及び、まるで『魔法のよう』と称される繊細かつ豊かな音楽的感性とテクニックは各国で驚きを持って迎えられている。世界の著名な国際音楽祭にも多数出演。オーケストラとの共演は国立フルシャワ・フィルをはじめ各國にわたり、日本でも東京響、東京都響、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、神奈川フィル、札幌響、山形響、群馬響、京都市響等の主要オーケストラと数多く共演している。1996年、第22回日本ショパン協会賞受賞。

CDはこれまでに、ボニーキャニオン、ビクターエンタテインメント、オクタヴィア・レコード等から全12タイトルをリリース。なかでも、ショパンの作品を時代ごとに取り上げた『ショパンの旅路』シリーズ（全6タイトル、オクタヴィア=EXTONレーベル）は、連動したリサイタル・シリーズとともに大きな話題を呼び、ベストセラーとなっている。その企画性と高い芸術性は、Vol.4~6が「レコード芸術」誌の「特選盤」に選ばれたほか、Vol.6『白鳥の歌』が2004年度「第42回レコード・アカデミー賞」（音楽之友社主催）にノミネートされるなど、朝日、読売両紙をはじめとする様々な媒体において非常に高い評価を得た。2006年10月には、ロシアの2大作品をカップリングしたNewアルバム『ラフマニノフ/ピアノ・ソナタ 第2番 & ムソルグ斯基／展覧会の絵』（オクタヴィア=TRITONレーベル）をリリース。その意欲的な選曲と作曲家および楽曲への深い理解、高度な演奏技術に裏打ちされた圧倒的な音楽表現が名演と評価され、「レコード芸術」誌の「特選盤」に選ばれた。

2006年からはソロ活動に加え、ピアニスト宮谷理香とのピアノデュオ・ユニット「Duo Grace」を結成。ショパン・コンクール入賞者同士による実力派デュオとして高い注目を浴びている。また、2008年1月からは「加山雄三 with 大友直人 シンフォニック・コンサート」全国ツアーに参加するなど、ますます意欲的な活動を展開している。その他にも、映画「戦場のピアニスト」の特別番組（テレビ朝日）やバラエティ番組への出演など、テレビ、ラジオ等でも幅広く活躍。現在は各國でのコンサート活動を活発に行う一方で、全国の小中学生を対象としたアウトリーチ活動を通じて社会貢献にも積極的に参加しているほか、桐朋学園大学ピアノ科で後進の指導にもあたっている。

■ 高橋多佳子ウェブサイト <http://www.takako-takahashi.com>



©Akira Muto

